寺塚原古老聞き取り

山崎 本で調べとったら、浦上和衛門さんも盛んに舞句やってっはっがいちゃ・・ん、片口へ送ったはる原稿がが残っとんが、昔は結構文化人の遊びやったがねぇ。そで、最後・・で言うたら、有名で・・中村二喜(ふたき)さんが一番有名やわね。高木 この辺で 岡本 寺塚原なんか、だいぶん昔に、どっか京都へ行って勉強してこらはった人おいでたがいねぇ
山崎 だから今も、紬山太四郎さん何んかこ知っとるがないか思うが。佐伯 ええそうそうそう。先生やもん。高木 だけど普通、こちらの方、舞句言うとったけども、まあ例えば砺波とかどっかあの辺ぐらい辺りは。山崎やっぱー 在(あ)んが。高木 舞句言うとったがですか俳句言うとったがですか。山崎 あのねぇ、狐の茶袋ちゅ本が、八集まで出とっがか？八集まで出とって七集が中村ふたきさんの編集ながいちゃ。後ねぇ片口の人もやりゃ砺波の人もおりゃ高岡の人もおる。でぇその、どう言うていいか、一種のある期間の舞句集を出いてはんがいちゃ、そたら加賀藩時代からも結構遊び・・文化的な遊びと言う考えで・・おわそやど、こまかいルールちゃ。なぁん・・よく知らんがでねぇ・ん・ルールあんがいちゃねぇ 高木 そんながでしょうねぇ 山崎 例えば、今日は朝顔て言うがで、言うたらその句の中に頭に、あさがおと入れんなんがいちゃ。 岡本 笑い・・ 高木 あさがおと入れんじゃなくて、朝顔言うたら最初の言葉が、あがつく物ねぇ、さがつく物、こういう風になってくるわけや、ははぁん・・山崎 それからねぇ 高木 そしたら別に舞句でなくても、今のこぉ・歌の文句じゃないけども。皆 笑い・・高木 そう言うがでも、だいたいそういう風な発想でしょう、何の詩(うた)を詩うか、なんの詩(し)を作るか何の物語を作るかそう言うもんに賭けとでしょう。山崎 変わったがでねぇ怪聞(かいぶん) ちゅうがあんがいちゃ。上から読んでも、 下から読んでも同じやつ。岡本 あはははぁ 高木 ふぅん・・ 山崎 長いやつ。あっなんやったけ。隣の竹藪焼けた、なんかそんながあるねぇ。あんないなもんあんがいちゃ。そやから、あんなながいもんとっさにちゃ、とっさにちゃなかなか出てこん。高木 相当な訓練された。佐伯 私ほら舞句やっとっるがいけど、在所わたしあの・・割合好きなもんで舞句がねぇ 高木 昭和三十六年・・ 佐伯 その昔から寺塚原のお宮さん中に、こういう額(がく)にしてねぇ 山崎 奉納してあるわけやちゃ 佐伯 舞句書いてねぇ、絵を書いてねぇあの万葉集のようなねぇあのほれ、まあその人のえを書いて、そこへ詩(うた)を書いたっがいちゃねぇ、そう言うがでねぇ明治の二十年位、二十年位の皆さんから、なんしたわけやよねぇ。額にしてなんしてあります。高木 私初めてそのぉ坂東のお宮へねぇこの夏にあのぉ・・見せていただいたんですけども。山崎 あんた所のお宮さんに奉納してないけ。高木 ないが 山崎 あるいわ外(は)ずいてあっかもしれんわ。だいたいねぇ各宮みんな奉納しとっもんやちゃ 岡本 昔ねぇお祭りやったかしら、四月のお祭りやったかまず村のどっかに舞句を読んだ、行燈(あんどん) かねぇ。掛かったもんですねぇその年その年のなんかしらんけどえぇ、そう言う記憶がありますわ。高木 ほおぉ山崎 ああすいません 皆 ご苦労様です。佐伯 どうぞここへ舞句の話出たら、あんた舞句の先生やにき。紬山 どなたも、こんばんは 佐伯 今、舞句の話が出まして 紬山 あぁそうけそうけ 佐伯 舞句の話が出まして、私舞句わからんもんだけで。山崎 青木さん始めよまいけ 青木 そしたら一応、塚原の会で、古老の方々に、塚原じゅうのまあ朴木とか沖塚原、寺塚原と回っている状態で、古老の話を文書にして、残していきたいと思っていますので、いろいろとしっとる事を昔から言い

伝えとか教えてほしいがですけど。そんながでよろしくお願いします。佐伯 いやまあぁ青木さんなんかねぇやっぱあほれ、私はここへ出てお話するようなねぇ、あのぉ研究もしてないし知識もないいしねぇ、実は恐れいっとるわけやちゃねぇところでねぇあのほれ、事前にまぁ寺塚原の歴史と言う事でございますけれども、こんなような事とこんなような事が、まああのぉお聞きすればありがたいなぁと言うような事でねぇなんかあのほれ前もってなぁんしていただければ、あるいはそんに答えられんこりゃ私はだめだとか、またならお互い調べてねぇ、前のやつとくにお出しして間に合えば利用していただきたいと言うような事も考えるんですけども、今ねぇだんにもまた山崎さんからまぁ今の話のようにねぇ回って一つ、まあぁそんなここへ来て、ここへ出て話すような器量もないもんでねぇよわったなぁと思って理屈はねぇ本当は参いっとるわけでありますちゃ 山崎 なん、まとまった話をとても聞けるぅ・聞けないだろし私達もまとまって、どういう問題あっがかも、なんわかっとらんが、だから今日はもうお互ざっくばらんに思いついたことをこう話ししてもらえばまぁと思うて。佐伯 まぁざっくばらんと言わっしゃらぁまぁそんなような事でまぁあのぉ・一応まぁあのぉ話を進めさしていただきたいなぁと思うわけですけどねぇ・実はねぇ私のまぁあのぉ友人でねぇ砺波のねぇそのぉろくぶちゅ部落あんがいねぇ私こういう事好きながいども、好きながいどただ、本を集めたりこんな事したりして、なぁしとるだけでねぇ別になかなか、やる事ってわからんしねぇそう言うもんで、こんなの作らえてからねぇ、これを私あのぉおもらいしたからねぇこれあのぉ立派やなかろのぉと私なりに感心して、それなら寺塚原なんかこんなもんに準じたもので何か出きかんと思うてねぇ実は６３年今から１３年前ほどにねぇ計画してこんなようなもん、あのぉ書いてねぇなぁんしたがいど、みお結ばんだかいどそう言う事もありますもんだからねぇ実はあのぉこの中にもまああのぉなんかこんなようなもん出来たし。

佐伯 へいぜい回って自分の感じたが、だけやれど、私一緒に回ったがは色々書いたっけれど・・・山崎 やぁ七美村の歴史なんかあんたぁ・・・竹原さん一(ひと)で書かれた 佐伯 そやから、そっだけん、おわっちゃも熱心にそんな書くような器量ありゃいけれどねぇ なぁ・・あんまないもねぇ、こっまで年も行ったしね、これからなおさら、まぁ残してくがに書かんなんかもしれんけどねぇ なぁん元気無くなってしもうたがいちゃ ある程度まとめて 佐伯 それは、ただほれぇまん中ほどまでは二人(ふたっ)で一緒に行ったがで、あとはねぇ権現(ごぎ)はん書いたがでねぇ 書かれたがでねぇそっでもそやねえ聞いただけを書くちゅう事だけでもなぁ・・本にする言うたら体験をやっぱぁ書かんなんでしょう。そっでなにやら難しいなってしもうてねぇ 青木 色々資料には言い伝えとか、そっながちゃんと載っとるかたちですから、どういうふうに伝えてこられたのか、大宝寺とか称念寺とか色々な言い伝えちゃあるはずやと思うんですけど・・・勝山さんは？ 山崎 前句(まいく)のルールとんに行かれたがで。 岡本 あの・・私わからずながら言うがですけども、その佐々成政がなんか、あのぉ・寺塚原の・佐伯 称念寺 岡本 称念寺に佐伯さんがその・立山の鍵を称念寺へ寄進したと、なんか物を寄進したために、佐々成政の方へ持ってこいと言うけれど拒否したために、称念寺を攻めたという、なんか伝え書き・・・佐伯 そう言うこと書いたっからね。岡本 書いてありましたね、その佐伯さんのね。 佐伯 称念寺のが見っと自分と持っとった所へねぇ書いたっからね。だから、やっぱそう言うて、攻めに来て。岡本 佐伯さんが寄進すれば佐々成政が攻めてこんだろうと言うそんなことですか？ 佐伯 称念寺、向こう佐々成政の方へくれ言うて、なんか書いたんますね。岡本 書いてむありますね、それも事実ながか、事実でないがか。山崎 それなんわからんわ。岡本 わからんですね。山崎 宝物ちゃ何んなのか、ちゅ事もわからんがいもんね 佐伯 称念寺ちゃ昔からでかかったっがでしょう。山崎 今聞いたら、そんなでかい・・おそらく何丁部あったもんだろうと思うがいね。岡本 三歩市と言う砦(とりで)かりにあったときに、称念寺がもうすでにあったのか？ 山崎 なんないが 岡本 なんないがですか。 山崎 そりゃはっきりしとる。だから三歩市城、跡へ称念寺が入ったんでは無いかと、おわは思とんがいちゃね。三歩市城言うたって、おわ三分の城やと思うがね、そいつを三歩市ちゅ地名がねぇ今でもおわとこに残っとっがです。皆さんそこを三歩市やと思うてはっけども、三歩市ちゅうのは寺、沖ひっくるめた三歩市村あったんだろうと 岡本 そこに仮に砦があったときに、お寺ちゅもんにゃ無かったのか、またあったのか、それに関してなぁん・わからんがですね 山崎 それで三歩市村は、もっともっと古いもんながで、三歩市ちゃ年貢の・・岡本 なんか何でしょう 山崎 三分の一、年貢を持っていく所やから三歩市言うたがでないけ、だからそこら辺ちゃ曖昧(あいまい)でもうろうとしている、まったくわからん状態ながいちゃねぇ、だから佐伯さんのその・・ 全(まっとう)な歴史がわかれば三歩市村てものがわかって来るんでないか 佐伯 資料ないもんやけでん・・・ 高木 大門の佐伯さん、本屋あそことその・・そこの方の佐伯さんとは、佐伯 七代目が、いまのがの七代目くらいやね・・分家して 高木 どっちが分家されたが、佐伯 本屋がねぇ分家のがちょっと書いて持ってきたが、これが本家、今のこの・・続くの 高木 あの・・佐伯さん 古文書とかそう言うがあるがないかなぁ 佐伯 あこのうちにけ。高木 えぇ私ちらっと、あのぉ私の大島に杉本哲哉(てつや) さん、親戚ながですけどあそこのがの、仲人されたと時にねえ、あれ結構そのぉぅあのう旧家ほどあって、色々資料もなんか、あるような事言っておられたねぇどの程度の物か分からないんがいけども 佐

伯 わしあのねぇ今の主人とねぇ年(とっしょり) 寄りの主人とねぇお寺も一緒やしねぇ　仲良っしとっしねぇあのぉと言う話しとっがいけどもねえ。写しもねぇ 立山行ってぇ本書でもあるか何かこんなが書いたっがか見てこんまいか、言うけどねぇそう言うながら今で出れんようになってしもたえどねぇ、これがそれから、たいしょの家の書いたる、次記したる、なんのがやけねぇ、こっと同じ写し 高木 それから続けて記録したるだけの。佐伯 それからこっちは、やっぱぁ一尼寺ちゅがあってね。 高木 そこに何か書いてありましたね。佐伯 このぉおわとこは、そこから分家したもんらしいちゃねぇん。岡本 もう一つねぇ松木の泉田さんへ称念寺から分家しとられるちゅうなんかあるがです。称念寺からこのぉ松木、泉田へ来とられると言う。佐伯 称念寺からははぁ・・岡本 称念寺に、そう言うなんか。山崎 だから泉田さんは称念寺の檀家やにきねぇ 岡本 泉田の本家ですけど、今は代は潰(つぶ)れて松木にはおいでませんけども、そこが称念寺の分家だったちゅう事を、話聞いとっがですけど、たからその・・村で土手、堤防みたいなのが、築いてあった。めぐら 佐伯 泉田はんにねぇ 高木 舟木さんのおばさんの家やったが、舟木貞道さんの 岡本 そうそうそう・・おっさん、あの人はちょっと交通事故で何代目かのあんちゃんちゃ先代がちょっとあの・・交通事故で亡くなられて、そのあとのおあんさんが少し・・おわとこの親父 山崎 おわとこの村でも古い家は称念寺やちゃ・その次古い家は、光西寺(こうさいじ) 金屋の後は、集まってきたもんな、集まって来た場所の権現(ごぎ)はんやにき、だから称念寺ちゅのは非常に力をもっとったがねぇ 佐伯 おわっちゃねぇおわっちゃに本当は門徒なけんなんならんがにねぇ 山崎 おわ称念寺と佐伯さんの関係がちょっとごたついた時に浄土宗ちゅもん引っ張りだいたがでないか思うが。 佐伯 昔の古老の話だと、称念寺行っとったがかねぇ、称念寺行っとったがかね、称念寺いっとったがで称念寺となんかねぇ、佐伯の文作さんの親とねぇまことに喧嘩してねぇ、そして今のあこに坂下の極楽室あんがでね、大仏さんのある坂下のねぇあこの門へ来てねぇそしておにぎり食べたとねぇおわっちゃあんなもんねぇ称念寺行かんとねぇ、この門徒なんまいかと 皆 笑い 佐伯 こう言うてなった言うて、昔古老の人ねぇあんた家(ち)そんながやとぉ、本当か嘘(いい)かぁ 山崎 やぁ尼寺ぁ・・そこに尼寺あったでしょう、尼寺ちゃ佐伯さんのどう言うて良いか佐伯さんの分家ながいにき。佐伯 あの佐伯ちゅもんな 山崎 おまえその・・寺、建ててやっからおまえそのぉやれと称念寺と縁切るがやって、そう言うことやと、思うがいちゃねぇ案外ねぇそこら当たりちゃそのぉ・・・今の宗派と違(ちご)うて、浄土宗のもんなぁ浄土真宗と関係ないとか、日蓮宗と関係ないとか。なん。高木 ほとんど、釈如から蓮如の間に、もうここの辺は、あのぉ真言と天台が二分しとったがいから、ほとんど前のじごんと言おうかお寺は、 遡(さかのぼ) った天台か真言、岡本 どっちかやは 高木 それがそのぉ井波西にきてかってさらに蓮如上人、むしろ禅宗の方が新しい。佐伯 やっぱ・・真言宗から浄土宗に代わったちゅう事はねぇ、この三十五代の時の人が書いてあるわ。山崎 たぶん転向したときに問題があったがでないか思うがいちゅが。岡本 先代の法名は古寺(こじ)になっとっがね、だから浄土真宗のあれではないがいちゃ法名ではないがいちゃね。やっぱり真言だと思うがいちゃねぇ、一番最初の人の法名がだからそうすると、なるほど・・なぁ 称念寺がもともとどっちかやったと思うがいちゃね。山崎 真言だろうと思がねぇ、岡本 真言でなかろうかと思うがですけど。山崎 ここら辺りほとんど真言だから。やぁそんなことはもう、どういうて言うか勘ぐるだけであってねぇ、何とも言えんがでねぇ 高木 この称念寺門徒ちゃ処何(どっ)か、中野とか若杉とか、

北野とかその辺に結構あるもんけ 岡本 あります、あります。 山崎 あろうがいね、だからここら一辺の 北村 ここの辺近くにちゃ散らばっとっちゅ事やねぇ宮袋、川口ねぇ、岡本 散らばってます。山崎 おそらく何百とあると思う。岡本 新湊の町にもあります。高木 尼寺に関係あるがでないかなぁ思うて 高木 尼寺は浄土宗 勝山 お聞きになりましたねぇ、これルールでして・・これは、小節の、福岡のねぇ福岡の主催の第三回目の題句の題であります。高木 何でも出すわけやぁ三文字をテーマに。 山崎 なん、なん、三文字を読む中へ入れてかんなんが 岡本 前句出題、喜びにねぇ 山崎 これが・・高木 前句はこっちの方をふつう書いとんがや。山崎 舞と前と・・きれいに言うと舞になんがいちゃ 紬山 気楽会(きらくかい)なにであります。あのぉ・・花の巻であります。三十六句、三十六句あの取りあげるがですねぇ何千の句がこうと、三十六句までが入選と言う事になっとりますがでねぇ・そのうちに感動完熟があると言う事でこれは、砺波の気楽会であのぉ・行われたあのぉ花の巻でありますこれ。高木 はあぁ大衆農民文芸として親しまれたわけやねぇ。岡本 農民の中に。高木 風流ながいねぇ 青木 一つは遊び、勉強会 勝山 なかなかおらっちゃ、難しくてねぇ上いかもっと、難して、おわっちゃなぁ・・高木 だけどこれは、言葉の訓練やちゃ 山崎 ん・・高木 ものすごい短い言葉の中に、いろんな情景をこうやってコンパクトに入れていくわけやから、芸術やちゃ言葉の。勝山 これあのぉさっき言うとった二十選(にじゅうせん)じゃの、寺塚原の可愛らしいちっちゃい花の巻であります。いろいろありますこれ。 山崎 それ、見たことあるわ 勝山 これは、福岡です。山崎 舞句もきれいな言葉に・・紬山 このルールの中でねぇ 佐伯 ふたきさんもおわとこの近所だからねぇ 勝山 花にもいろいろあるかしらしらねど。七、七と五、七、五のが題がでますけどねぇあのぉ七、七のやつは長題(ながだい)言うてねぇ・長題な五、七、五でた題に限っては、七、七であのぉ切らなければいかんわけです。七、七に五、七の場合は、七、七切って、そっで七、七の場合は五、七、五で書くわけです。句を作るわけです。これルールのっとりのすけどねぇ・・花にはいろいろあるかしらねど題にねぇ・・一人では、ておらせるにも親の苦労ちゅのが感情になっている、難しいですよ。高木 川口にはこんなが無いでしょう。小泉 無いです。高木 畑ばっかりしとっから・・あっはは・・青木 お寺あったからですかねぇ 山崎 関係ないわ 高木 ハイセンスの人、文化人がおれば育つがいちゃ 山崎 それぞれの向き、あんがいちゃねぇたとえば、川口の場合やったらねぇ石黒信由の弟子が割合多いがいちゃと言うのは、そう言う数字遊びが好きな人がおんがでぇ 寺塚原と松木とか沖塚原はどっちか言うら言葉遊びの人が多いが、だからそう言う所々であって決してあの・・小泉 数字やから金貯めるがの計算やちゃ 佐伯 松木の小田さんあんたあ・・前句は上手(うまい)いけど 岡本 涼末(りょうすえ)でしょう。紬山 涼末さん選じゃ級や 岡本 久賢(きゅうけん)ちゅうが今の 紬山 ここの久賢さんものっとりますけどねぇ花の巻に。高木 小田久賢 岡本 たいしたもんや親父になろてやって 山崎 あのぉ前句集出すがにねぇ、村長しとった浦上和衛門さんがねぇ結構スポンサーなが、金、出いてはんが、こう言うもん作くっがに金、出いとる、ひたらあんた・・金だいたからちょっこいいところ載せときますとかねぇ 皆 笑い・・・ 紬山 面白(おもしい)がねぇ、魚好きとか、木好きとか、そう言うふうながありましてねぇ、久しぶりめでたいお酒捧げます。これはねぇその、魚好き言うたら、ひさしぶりめでたいお酒捧げます。魚ばっかし入れて、五つ作らんなんいかんが、五つ以上作らな。文句がきれいであって、その久しぶりめでたいお酒捧げます言う中に五つ以上なけんなん入選せんのです。それを五つ

も六つも入っとれば、それが○ 皆 笑い・・・ 高木 それをうまい事、言わんなん 紬山 それをすっきっと言える文句でなけんなん入選せんのです。山崎 漬け物の部、もじりやねけ。 高木 だからそう言う人たちは日頃 紬山こんながまた見てくだはれ。高木 こんな人達は口上(こうじょう)がうまいがいちゃ、即興(そっきょう)ででも頭の中で、魚一つ覚えていかんもん、パラパラと出るがいちゃ 紬山 頭でちゃ見たとたん、頭に悩みますわ・・・ 岡本 鰤、鯛、鮭、鱒やにき・・・あはははは・・・高木 ほぉ・・・皆、笑い・・山崎 勝山さんこっちょっと貸してもらえんけ。紬山 ええどうぞどうぞ 山崎 お願いしますねぇ 紬山 うちで始末わるいもんやけで、ごっちゃごちゃにしとんもんやけでねぇ、ちょっと見あたらんがで、たくさんあるはずながで、今あわてて来たもんで、原詩で高信さんですが。岡本 高信さんのお父さんやなぁ今、亡くなられた。亡くなられたけど 山崎 青木さんコピーできん、この次の時皆さんに分けてあげて下さい。岡本 この前句が寺塚原に根付き始めたちゅうか、奨励されたような時期ちゃなんかなかったですか。紬山 寺塚原で行った句ですけ 岡本 一番最初のなわみ文化ちゅうもんかそう言うものを奨励された時代、だいぶん遡って、何か聞いとられませんか? 紬山 昔のやつはあんまり詳しいが分かりませんけどねぇ 山崎 結局加賀藩の農民ちゃ割合裕福やったちゅ事ながねぇ 紬山 だいたい六十の還暦位に成ったら、その前句会はいっとる人が、祝賀前句会言うてねぇそれやりますがで・・高木 還暦祝賀舞と書いとっねぇ 佐伯 四十二の時にそこで 紬山 そうおう先生のあいつ持ってくっが忘れた、持ってこらいかった 佐伯 ここ持って来たよ。紬山 厚い本ねぇ第十一辺ちゅやつ、あれは立派なもんや。小泉 いい楽しみしとられますねぇ 紬山 あれ、忘れしもうた。佐伯 十一辺(じゅういっぺん)まで書いたっが、そいつまだ持っとろう、そのほれ西さんから聞いたそのほれ、何にねぇ書いたっがいちゃ 北村 継続されとっちゃ 高木 そんながいちゅが。北村 宮袋川口・・高木 だめやわ。北村 ねぎばっかで・・・小泉 農ばっか持って行かはって。佐伯 三十六年にこんながもろとっちゃにっさから。佐伯 あのほれ寺塚原の神社に額はいっとっが明治の二十年け 紬山 前句・・後から増えた、愛知県にあるがいけど・・青木 大宝寺ちゃ 高木 大宝寺畑 山崎 称念寺と同じ、あのぉ高岡城を造ったときに城下町として、お寺を集めた。岡本 集めたちゅことは、ここに称念寺も大宝寺もあったちゅ事やねぇ、僕がわからんが八尾に逃げとったがあっでしょう、またここへ戻って来とんがか、その辺がはっきりせんが結局お寺ちゃねぇ。だから寺は焼いてしもうたでしょう。山崎どうしてお寺を集める言うと城造るでしょう、その城の寺が出城の役目すっがいにき、なんか戦(いくさ)あった時に、これが一つの小さな城になるわけ、それで寺を回り集めて、城のさらに出城(でじろ)ちゅう貌(かたち)ねぇ、だから集めるわけ、結局敷地は多いわ、建物は大きいわ、結構人が住めるちゅ事やから 高木 そこに檀家がちゃんとおっから家来にすぐなると言う感じになんがいちゃ 山崎 お前は何々・・何々だから、たとえば、信長が本能寺で死んだと言うのも、そう言う意味なが結局自分の根拠地みたいなもんを延(の)ばすわけ、そっで寺を集めたんだけども。佐伯 おわとこのねぇ 山崎 鳥見役のねぇ 紬山 選謬(せんびゅう)されたやつねぇこう言う十分まで、天狗はんのはんこを押されて。岡本 はは・・紬山 三十六句で入選。まで入選するんですけど、その内の十句その十のうち言うて、天狗はんのはんこを押してもらうがです。えぇ 岡本 なるほど・・わたし、あのぉ小学校の時、百周年のあのぉ学校の古史作ったときに、この前句が農民の中にあのぉ広められたと言うなんかその、加賀藩かどこかしらんけど、そう言うがが寺塚原が作って、なんか広められたちゅう事ちょっと聞

いたこと、誰かが語って下さった。その中に書いたった気がした。えぇ 山崎 こぉ五干(ごかん)言うがけ字(あざ)。佐伯 五干(いつほさ)、五干(いつほさ) 山崎 五干(いつほさ)ほぉおわ、この地名ねぇ小字出てきたときごかん言うがか、ごさと言うがか 北村 なんちゅう難しいがいねぇ 鳥目でない鳥見ながいちゃねぇ 佐伯 市報のほれ新湊の市報にこれ載せてあっがいちゃねぇ 佐伯 馬も持っとったがねぇ 山崎 借りっもんあったら後からごそっと借りようや。高木 今バラバラになる、借りたが借りんだがなっけで。山崎 さぁそろそろ・・青木 長いこと 佐伯 とんでもない、何もわからんがに 高木 貴重なもんありがとうございました。紹山 塚原の交番所に、亀沢、じんだはん・・警察官(しんさく)で亀沢ちゅが駐在所におられた事あっがあの人がほれ村、？古老のときにほれ、佐伯信策と一緒にねやられた、その花巻き・・六十年